

2007年7月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

- 1 会長就任にあたって
- 2 第25回大会のお知らせ
- 3 理事会より・編集委員会より
- 4 大会運営委員会より・会計報告
- 6 事務局より・編集後記

会長就任にあたって

会長 天野 政千代

研究水準の高さ、組織力、会員の熱意、どれを取っていても日本英語学会は第一級の学術団体であり、欧米の研究者もそのことを率直に認めています。本年11月10日、11日に名古屋大学で開催予定の全国大会は25回大会となっており、歴史も積み重ねられてきました。その学会の会長・事務局の責任は大変重く、昨年12月17日に千葉前会長から会長選挙の結果を知らされたときは、その重責はとても私に担いきれるものではないと思いました。しかし、前事務局の暖かいご支援の下、今年4月から新事務局をスタートさせることができました。不慣れから色々至らぬことばかりではありますが、会員の皆様、どうぞ宜しく申し上げます。

学会自体が成熟しても、常に注視していなくてはならないのはそれを取り巻く周囲の環境であります。1983年11月の本会創設当初と現在とでは大学が置かれている状況は全く異なっています。国立大学が法人化されて採算性を重視するようになり、国立大学法人からも私学からも、本会の存立基盤である英文科や英語学講座といった名称が徐々に消えております。それが年次大会出席者数の減少、会員数の減少につながっていることは、いまや否定し難い事実でありましょう。必然的に会費収入も減少してきており、このまま放置すると、いずれ深刻な財政難に直面することでしょう。しかし他方では、本会創設当初よりも英語の地球

上における人類共通語としての地位はより確かなものとなり、この言語の理論的・経験的・共時的・通時の研究はますます重要になってきております。英語の研究はこの言語を母語とする人々にとってだけでなく、地球上の多くの人々にとって多かれ少なかれ何らかの意味をもっており、英語を総合的に研究する本会のような学会が我が国で不要なはずはありません。そういう意味では、日本英語学会の存立基盤は一段と強固になったと私は認識しております。問題は私たちがそうした状況の変化に対応すべく、学会の組織と運営をどのように刷新していくのかであります。私見では、現在の日本英語学会にとって重要な課題は、「電子化」、「国際化」、「拡充化」の3点であります。

ジャーナルへの論文投稿、年次大会への研究発表応募、新人賞への応募などを郵送のみでやっていたのでは、時間も労力もお金もかかり、学会運営の機能アップを図ることができません。それに、郵送だけでは、海外からの応募はほとんど期待できず、学会の国際化も期待できません。この場合の海外とは欧米はもちろんのことですが、近隣のアジア諸国がむしろ中心になるのではないかと考えています。海外からも応募があれば、*English Linguistics*や*JELS*の様相も変わっていくことでしょう。ちょっぴり悔しいですが、外国人が新人賞を取ることもあるかもしれません。研究の拡充化という意味では、年一回の年次大会だけでは不足なのではと感じています。小規模でも、年次大会とは異なる運営と内容と雰囲気、あまり形式にとらわれず、会員自身の創意で自由に研究交流ができる場が必要になってきているのではないのでしょうか。そこに外国人も参加してくるようになれば、使用言語は英語でなくてはなりません。しかし、こうした改革は一朝一夕で成し遂げられるものではなく、会員規定をはじめいくつかの規定変更、予算措置、人員配置などについて理事会、評議員会、*EL*編集委員会、大会運営委員会で実現に向けた努力をお願いしなくてはなりません。海外への発信のためにホームページの英語版も必要です。他研究組織との相互協力も拡充化の重要なポイントであり、事情の許す限り、協賛、後援、

共催といった形で国内外の諸学会と相互交流を深めて行きたいものです。

大学では機関別認証評価と並んで、研究水準評価と教育水準評価を主な内容とする法人評価の嵐が吹こうとしております。その中で本会の会員が高い評価を受けられるようにするにはどうしたらいいのか、その観点も重要であります。さもないと、日本英語学会は会員にとって存在意義のない組織になる恐れがあります。

学会運営が非常に難しい時代ではありますが、会員の皆様のお知恵を拝借しながら、徐々に徐々に進めてまいりたいと思いますので、重ねてどうぞ宜しくお願い申し上げます。

第25回大会のお知らせ

日時：2007年11月10日（土）～11日（日）

場所：名古屋大学（東山キャンパス）

（〒464-8601 名古屋市千種区不老町）

日本英語学会第25回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。これまで参加者から寄せられた意見を参考に、本年度はシンポジウムを第2日の午後にまとめましたのでご注意ください。

11月10日（土）

午前：ワークショップ

12:50～13:35：総会

午後：研究発表

17:40～19:40：懇親会

11月11日（日）

午前：研究発表

午後：シンポジウム

今年度は、6つのワークショップ、36の研究発表と6つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目）

A. 英和辞典はどこまで意味を記述できるか〔瀬戸賢一〕（田中茂範：「多義語における意味の連続性をどう回復するか」、南出康世：「学習英和辞典における前置詞・副詞辞の記述」、赤野一郎：「学習英和辞典における意味記述 - コ

ーパス言語学の視点から」、池上嘉彦：「Natural English」とは何か」、瀬戸賢一：「多義語辞典から新しい英和辞典へ」、八木克正（デイスカッサント）：「英和辞典の保守性と革新性」]

- B. 日本の英語教育を異化する（公開）〔唐須教光〕（大谷泰照：「2つの視点」、鈴木孝夫：「日本の英語教育を異化する：私の提案」、本名信行：「英語を国際言語として教えることに関する一考察～英語の多文化化を視野に入れて～」、唐須教光：「なぜ「識者」は早期英語教育に反対するのか～その心理的背景を探る」]
- C. 日本語の音節構造とプロソディー：方法論の違いから何が見えてくるか〔田中伸一〕（田中伸一（総括）：「日本語の音節構造とプロソディー」、原口庄輔：「音韻理論：音節の理論とプロソディー」、上野善道：「日本語のアクセントと音節・モーラ」、Osamu Fujimura：「The Syllable and Prosody.」 窪園晴夫（デイスカッサント）]
- D. 移動と一致のタイポロジー〔岸本秀樹〕（岸本秀樹：「一致としての主語尊敬語化」、高野祐二：「Scrambling and Control.」 宮川繁：「What's Wrong With Today's Linguistic Theory?」]
- E. 普遍文法に迫る日本語獲得研究〔佐野哲也〕（薬袋詩子：「幼児言語における論理接続詞とフォーカス演算子 - 日英語比較研究」、岡部玲子：「使役文の獲得：複文構造の早期発達」、郷路拓也：「作用域解釈に関する制約と第一言語獲得」]
- F. コーパスを利用した英語史研究の現状と課題〔大門正幸〕（柳朋宏：「Parsed Corpora of Historical Englishを利用した英語史研究 - 数量詞の事例を中心に - 」、家入葉子：「The Oxford English Dictionaryの引用文データを利用した英語史研究 - doubtの検索例を中心に - 」、大門正幸：「データ公開の重要性」]

なお、本大会の詳しい内容につきましては、9月にお送りする「大会資料・プログラム」をご覧下さい。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2000円）を戴き Conference Handbook と名札をお渡ししま

す。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開シンポジウム(B)のみ参加費と名札なしで入室できます）。また、10日(土)の受付は12時より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

◇ 総会について

10日(土)の12:50より13:35まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、事務局からの報告、学会賞授賞式などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

10日(土)17:40より19:40まで、学内のアメニティハウス1階 フレンドリィ南部において会員懇親会(会費4000円(学生3000円))を催します。多数ご参加下さい。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送り戴ければ幸いです。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5
桐原書店内 日本英語学会事務局

◇ 学内食堂の利用時間

10日(土)は北部厚生会館2階北部食堂、11日(日)はフレンドリィ南部がご利用になれる予定です。詳しくは9月に郵送される「大会資料・プログラム」をご覧ください。

理事会より

○ 会計

2006年度収支決算書および2007年度予算計画書について財務担当より説明があり、審議の結果、承認されました。

○ 役員の異動

事務局長(退任)

本年3月末日をもって鈴木猛氏(東京学芸大

学)が事務局長を退任されました。2年間、裏方として多岐にわたり学会事務を支えてくださいました。ご尽力に対し心よりお礼申し上げます。

○ 特別賞の授賞に関する規程の改正について

6月24日の理事会において、特別賞の授賞に関する規程の一部が改定されました。下記をご参照ください。

特別賞の授賞に関する規程新旧対照表

2007年6月24日改定

	旧	新
第2条	理事は特別賞の推薦を行うことができる。推薦を行う理事は、被推薦者の経歴書、主要な業績書、および推薦理由書を付して、毎年4月30日までに会長に具申する。	理事は特別賞の推薦を行うことができる。推薦を行う理事は、被推薦者の経歴書、主要な業績書、主要業績3点に関する概要、および推薦理由書を付して、毎年4月30日までに会長に具申する。

○ 第26回大会(2008年度)の開催校

来年度の大会は、2008年11月15日(土)、16日(日)、筑波大学にて開催されることが決まりました。

○ 第3回「自立学習学会」について

本学会が後援する「自立学習学会」の第3回日本大会が下記の通り開催されます。

日時：2007年10月5日(金)から10月8日(月)までの4日間

会場：神田外語大学

詳しくは、2007年第3回自立学習学会日本大会ホームページをご覧ください。

編集委員会より

◇ 編集委員の交代

・退任される委員

本年9月30日をもって、以下の12名の委員の方々が退任されます。

○ 2期4年：米山三明氏(現委員長)、阿部潤

氏、大庭幸男氏、加藤泰彦氏、岸本秀樹氏、窪菌晴夫氏、高野祐二氏、堀江薫氏、丸田忠雄氏、遊佐典昭氏、故吉田恵以子氏（なお、米山三明氏には、編集委員ご退任後も本年11月30日までは委員長を継続して務めて戴くこととなります。）

○ 1期2年：影山太郎氏（現副委員長）

退任される委員の方々には、お忙しい中長期にわたって編集委員会のためにご尽力戴きました。心より御礼を申し上げます。

・再選された委員（2期目）

以下の4名の委員の方々が再選されました。任期は2009年9月30日までとなります。

今西典子氏、大門正幸氏、高見健一氏、外池俊幸氏

・新たに就任される委員

上記委員の退任に伴い、以下の11名の方々次期編集委員に選出されました。任期は本年10月1日より、2011年9月30日まで（再選の場合）となります。

稲田俊明氏（九州大学）、岩田彩志氏（大阪市立大学）、酒井弘氏（広島大学）、田中伸一氏（東京大学）、Brent de Chene氏（早稲田大学）、寺田寛氏（大阪教育大学）、坪本篤朗氏（静岡県立大学）、西岡宣明氏（九州大学）、松岡和美氏（慶應義塾大学）、矢田部修一氏（東京大学）、由本陽子氏（大阪大学）

◇ **English Linguistics** 第24巻1号（2007年春号）の刊行について

EL24. 1（春号）が刊行されました。一般論文2編、Notes and Discussion 1編、書評論文9編が掲載されています。会員の皆様には、6月中旬に発送されております。

なお、目次および裏表紙で、一番目の書評論文の書評対象本が L. Jenkins... となっております。正しくは L. Jenkins (ed.)...です。お詫びして訂正致します。

◇ **English Linguistics** 第24巻2号（2007年秋号）の応募論文の査読結果について

EL24. 2（秋号）への応募論文の査読結果は、以下の通りです。今回より、新規投稿分に加え、前号の審査で大幅修正（4ヶ月書き直し）となった論文についても結果をお知らせ致します。

以下の表のうち「審査中」は、新規投稿分で4ヶ月書き直しとなった論文を指します。なお、書評論文および4ヶ月書き直しとなった論文には、「審査中」は該当しません。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
一般論文	11	2	3	0	6
N&D	2	1	1	0	0
書評論文	10	9	1	0	—
4ヶ月書き直し					
一般論文	6	3	2	1	—
N&D	0	0	0	0	—
合計	29	15	7	1	6

◇ **English Linguistics** 第25巻1号（2008年春号）への投稿について

来年2008年6月発行のEL25. 1（春号）の投稿締切は、2007年9月20日（木）（必着）です。今年から秋の締切日に変更になりますので投稿される際にはご注意ください。あわせて、2007年3月発行の会員名簿または学会ホームページをご参照の上、記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を遵守下さるようお願い致します。

特に論文の長さ（1頁25行、12ポイントの活字を使用して、一般論文および書評論文は40枚以内、N&Dは12枚以内）については、十分ご確認下さい。内容の如何に関わらず、規定に違反するものは不採用となります。

大会運営委員会より

□ 第25回大会の個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表へは55篇の応募があり、審査の結果、本大会では36篇の研究発表が行われることになりました。

2006年度会計報告

2006年度収支決算書（2007年4月1日現在）が監事（八木孝夫氏、瀬田幸人氏）による監査を経て、6月24日の理事会で承認されました。

2006年度収支決算書

2007年4月1日
日本英語学会会長 天野政千代

2007年6月24日現在

2006年度より繰越	¥8,895,200
2007年度収入	¥15,557,100
合計	¥24,452,300

収入	¥27,578,533
支出	¥18,683,333
2007年度への繰越	¥8,895,200

【収入内訳】

2005年度より繰越	¥10,029,825
会費	¥12,136,060
大会参加費	¥1,320,000
JELS予約金	¥442,000
科研費と利息	¥3,100,055
利息	¥7,658
雑収入	¥542,935
合計	¥27,578,533

【収入内訳】

会費（2007年度）	¥11,257,000
大会参加費	¥1,400,000
科研費	¥1,600,000
利息	¥100
雑収入	¥700,000
JELS24予約金	¥600,000
合計	¥15,557,100

2007年度支出	¥18,354,860
2008年度への繰越	¥6,097,440
合計	¥24,452,300

【支出内訳】

EL 刊行費	¥6,402,222
NL 等印刷費	¥1,199,252
業務委託費関係	¥3,201,655
事務委託費	¥1,377,116
発送費	¥1,824,539
大会関係費	¥2,945,120
印刷費	¥1,176,840
運営費	¥685,280
謝金	¥1,083,000
JELS関係費	¥437,325
委員会関係費	¥1,074,190
旅費	¥869,250
会議費	¥204,940
事務局関係費	¥3,423,569
賃貸料	¥80,210
人件費	¥2,647,560
通信費	¥294,716
消耗品費	¥88,921
謝金	¥63,870
資料コピー費	¥9,580
その他	¥238,712
合計	¥18,683,333

【支出内訳】

EL 刊行費	¥5,500,000
NL 等印刷費	¥200,000
業務委託関係費	¥2,896,500
事務委託費	¥1,096,500
発送費	¥1,800,000
大会関係費	¥3,250,000
印刷費	¥1,250,000
運営費	¥1,000,000
謝金	¥1,000,000
JELS24関係費	¥500,000
委員会関係費	¥1,700,000
旅費	¥1,400,000
会議費	¥300,000
事務局関係費	¥3,438,360
賃貸料	¥80,000
人件費	¥2,643,360
通信費	¥300,000
消耗品費	¥100,000
謝金	¥75,000
交通費	¥10,000
資料コピー	¥30,000
その他	¥200,000
新人賞・特別賞費	¥270,000
記念品	¥60,000
副賞	¥200,000
賞状	¥10,000

2007年度予算計画書

次の予算計画が同理事会で承認されました。

協賛学会への助成	¥100,000
予備費	¥500,000
合計	¥18,354,860

2007年度内収支	
2007年度収入	¥15,557,100
2007年度支出	¥18,354,860
	¥-2,797,760

2008年度への繰越	
2006年度繰越	¥8,895,200
2007年度内収支	¥-2,797,760
	¥6,097,440

[備考] 特別事業費(別会計)の現在残高は500万円となっております。

事務局より

- 2007年3月31日現在の会員総数は、1,539名です。会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。
- 今年3月に送付済みの会員名簿には、研究発表応募規定、EL投稿規定、新人賞応募に関する細則等が掲載されています。会員名簿の発行は3年に1度ですので、今後3年以内にこれらが変わられる場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に閲覧することをおすすめします。
- 最近、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、ELに掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。本会としても前向きに対応したいと考えており、理事会においてEL掲載論文の再録等に関するガイドラインについて現在検討中です。このようなご希望や自著への再掲載のご希望をお持ちの方は、事前に事務局宛ご連絡いただければ幸いです。
- ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELの認知度がさらに高まるだけでなく、本会の運営にも益するところ

ろがありますので、よろしくお願いたします。

- 今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しています。昨年はお二人のご利用がありました。利用ご希望の方はお子さんの年齢等を10月末日までに事務局にご一報下さい。なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

編集後記

本年4月より、事務局のメンバーが一新され、次のような構成となりました。

事務局長：田中智之（名古屋大学）

編集委員会・理事会書記：

水野江依子（名古屋工業大学）

横越梓（愛知淑徳大学（非常勤））

評議員会・大会運営委員会書記：

中川直志（名古屋産業大学）

財務係・新人賞書記：

若山真幸（愛知淑徳大学）

新事務局の発足から3ヶ月が経ちましたが、前事務局の方々にもアドバイスをいただきながら、各メンバーは奮闘中です。不慣れなこともあり、また仕事量が多く複雑なので、会員の皆様には行き届かぬ点も多々あるかと思えます。天野会長のもと事務局員一同、精一杯努める所存でありますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

現在、11月10日～11日に名古屋大学で開催される第25回大会に向けて、大会運営委員会、開催校委員、事務局員等、全力を挙げて準備を進めております。大会が盛会となりますように、どうかご参加いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(田中)

2007年7月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 天野 政千代

発行所 日本英語学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5 桐原書店内

電話 (03) 3314-8181



古紙配合率70%再生紙を使用しています